

## 大阪カジノ誘致 旗振る維新

写真は朝日新聞 7月 18 日夕刊の社会面。1 面トップには京都での「アニメ会社火災」の記事が掲載されている。

参院選を前に、大阪にとって重要な記事なので紹介したい。リードから一整備のあり方の大枠を示す基本方針の公表が参院選後に先送りされ、争点としての盛り上がりを欠くカジノを含む統合型リゾート (IR)。だが、選挙後を見据えて、全国で最大三つの開業枠をめぐる誘致合戦の激しさは水面下で確実に増しつつある。

国が 2020 年代前半の開業を見込む IR の「本命」とされる大阪。計 12 人が立候補した同選挙区 (改選数 4) では共産党がカジノ批判を展開するが、大阪府知事や大阪市長ポストを押さえて誘致の旗を振る日本維新の会の公認候補が街頭演説で積極的に触れることはない。維新と対立する自民党も IR 誘致に賛成で、論戦は低調だ。

ただ、参院選後は規制・監督機関となる「カジノ管理委員会」の設置や国の「基本方針」策定・公表など、政府が予定する手続きが一気に進むとみられる。そうした動きを見据え、大阪では誘致の準備が着々と進む。「大阪 IR 基本構想案」をまとめた府・市は、事業者の選定作業に着手。すでに国内外の 7 事業者が登録するなど、誘致が「既定路線化」しているのが実情だ。

開業の候補地は 2025 年大阪・関西万博の会場となる大阪市の人工島「夢洲」。府・市はインフラ整備の一部を事業者に負担させる方針で、万博開催前年度の 24 年度中の開業を目指している。

7 月 12 日にレポートで紹介したように、朝日新聞 6 月 20 日社説は、政府が予定していた IR 手続きを先送りしていることを取りあげる。これも「選挙前は波風を立てず、不都合な話から国民の目をそらそうという戦術なのか」と。

IR という名のカジノ誘致の「本命」といわれる大阪の有権者の皆さんに問いたい。夢洲でのカジノ誘致に旗振る維新にも、支持されるのですか？ 維新は今回の選挙公約にも掲げず、選挙前は波風を立てないようにしているようだ。

もう一つ言いたい。記事で大阪府市が「大阪 IR 基本構想案」をまとめたとあるが、現在そのパブリック・コメントが実施されている。府市民の声も聞かず、案のままで、カジノ業者の選定作業を進める大阪府市、維新政治の先走りこそ批判されるべきだろう。

(2019 年 7 月 19 日)

